

ルールの徹底と教師の発問力が授業を充実させる

10月号の特集は、時宜を得た記事で訴求力があり、国語・数学・生物の実践事例も具体的に参考になった。中でも、三重県・私立鈴鹿中学・高校の岩佐純巨先生の「グループ学習のルール」の徹底は、充実したグループ学習を行うために欠かせない視点だと感じた。また、長野県屋代高校・附属中学校の「教師が発問のレベルを間違えると、生徒が途端に話さなくなる」という駒井健吾先生の言葉に共感した。これは、アクティブ・ラーニング型授業に限らず、どのような授業形態においても当てはまると感じた。

「福井県立若狹高校・中森一郎」

教師の確かな仕掛けが、生徒をやる気にさせる

10月号の「ハートをこがせ！」の埼玉県立川越工業高校の電車を自作する活動を見て、教師による生徒への的確な仕掛けが、生徒をやる気にさせ、充実した教育につながっていくのだと感じた。改めて、教師の質の高い意図的な取り組みの重要性を認識した。

「福島県立安積黎明高校・森下陽一郎」

志望理由書を通して、自身の考えを深めてほしい

10月号「新課程 指導最前線」の岩手県立盛岡北高校の記事で、「その職業に就きたいと思った『きっかけ』を、志望理由と勘違いしている」という小田島淑人先生の言葉に納得した。本校でも志望理由書の取り組みを行っており、「職業を通してどのように社会に貢献したいのか、自己実現を図りたいのか」とい

う部分を生徒にもっと考えさせたいと思った。

「広島県・広島市立沼田高校・正木勝治」

教師の熱意ある指導が生徒を変える

10月号「指導変革の軌跡」の青森県立むつ工業高校の記事を読み、不本意入学の生徒が高校時代で変われるように指導するのは、教師団が熱意を持って取り組まないと難しいと感じた。また、マナトレなどを活用した学び直しの成果もあって国公立大の合格者が出ていることは、進路多様校にとって大いに励みになると思う。

「静岡県・沼津市立沼津高校・谷野公彦」

カリキュラム・マネジメント推進に多くの課題

10月号の「半歩未来を考える教育オピニオン」は、次期学習指導要領の狙いとポイントを分かりやすくまとめであり、参考になった。「学校関係者は、『学力』を学校教育法に基づいて認識した上で、どのような『学力』を生徒に身に付けさせるかを考え、議論し、実践していくことが必要」とあったが、その通りだと思う。アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントを推進するためには、学校の組織や運営の見直し、評価のあり方の再考、教師の意識改革など、数多くの課題の解決が必要だと感じた。「沖縄県・匿名希望」

教師川柳

子が生まれ保護者の思いを噛み締める

滋賀県立守山中学校・高校・北村和士

Reader's VIEW

Volume 5

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

『VIEW21』高校版はウェブサイトでもご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「改良！指導ツール ピフォーアフター」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎今回の特集の座談会取材を通して、アクティブ・ラーニング（AL）型授業では教師による場づくりや発問が、生徒個々の思考を活性化・深化させる上で極めて重要だと分かりました。私の高校時代のAL型授業を振り返ると、「グループになって話し合いなさい」と言われたものの、リーダーシップのある生徒の意見に流されてしまうことがよくありました。あらかじめ話し合いのルールを設定しておくことで、そのような問題は解決でき、更に、これからの社会で求められるファシリテート力を生徒にも育むことが出来るという点は、今回の座談会で得た大きな気づきでした。（廣田）

VIEW21 12月号 Vol.5

2015年12月11日発行

発行人 山崎昌樹
編集人 春名啓紀
発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
撮影協力 荒川 潤、川上一生、谷口 哲、福田 哲、ヤマグチイッキ
イラスト協力 伊藤美樹

VIEW21編集部
〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2015

VIEW21

2016
February
2月
Volume 6

次号は
2月12日発行(予定)
『VIEW21』高校版は
年6回の発行です